

# 二〇一一年度 国語

(五十分)

答えはすべて

解答用紙

に書き入れること。

高一本

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「自立」ということは、人々の心をひきつける標語として、長い間その地位を保ち続けているようである。時代によって、そのような標語は変化するものだが、自立は、その魅力をなかなか失わずにいる。A、どのようなありがたい標語でも、それが人気とともに一人歩きを始めると、<sup>①</sup>不都合なことも生じてくる。

<sup>②</sup>いつぞや、こんなことがあった。言葉がよく話せないという<sup>ア</sup>ヨウチエンの子供を、母親が連れて相談にいられた。よく話を聞いてみると、その母親は、子供を自立させることが大切だと思い、<sup>③</sup>できる限り自分から離すようにして子供を育てたことである。夜寝るときもできるだけ添い寝をしないようにして、一人で寝かせるようにすると、初めの子は泣いていたが、だんだん泣かなくなり、一人でさつと寝にゆくようになったので、親戚の人たちからも感心されていた、というのである。

このようなとき、その子の自立は見せかけだけのものである。親の強さに押されて、<sup>イ</sup>シンボウして一人で行動しているだけで、それは本来的な自立ではなく、そのために言葉の障害などが生じてきている。このときは、そのことをよく説明して、母親に子供の接近を許すようにさせると、今までの分を取り返すほどに甘えてきて、それを経過する中で、言葉も急激に進歩して、普通の子たちに追いついてきたのである。

自立ということを依存と反対である、と単純に考え、依存をなくしてゆくことによって自立を達成しようとするのは、間違ったやり方である。自立は十分な依存の裏打ちがあってこそ、そこから生まれ出てくるものである。子供を甘やかすと、自立しなくなる、と思う人がある。たしかに、子供を甘やかすうちに、親のほうがそこから離れられなくなると、子

供の自立を妨げることになる。このようなときは、実は親の自立ができていないのである。④ 甘えること、甘やかすこと  
に対する免疫が十分にできていないと言える。親が自立的であり、子供に依存を許すと、子供はそれを十分に味わった後  
は、勝手に自立してくれる。

自立といっても、それは依存のないことを意味しない。そもそも人間はだれかに依存せずに生きてゆくことなどできな  
いのだ。自立ということは、依存を排除することではなく、必要な依存を受け入れ、自分がどれほど依存しているかを自  
覚し、感謝していることではなからうか。依存を排して自立を急ぐと、自立ではなく孤立になってしまう。

このあたりのことがまだあまりわからなかったころ、私はヨーロッパに行き、ヨーロッパの人たちは日本人より自立的  
だから、⑤ 親子の関係などは、日本よりはるかに薄いのだろう、などと勝手なことを考えていた。ところが、実際にスイ  
スに行ってみると、親子が離れて暮らしている場合、電話で話し合ったり、贈り物をしたり、B、時にウカイシヨ  
クしたりする機会が日本人よりはるかに多いことに気づいて、不思議に思ったことがある。⑥ これをよく観察して思った  
ことは、彼らは自立しているからこそ、よくつき合っているのだ、ということであった。C、つき合いの機会が  
多くなることによって自立が、エハカイされる、というおそれを感じていないのである。これが日本の場合であれば、うっ  
かり親と話をすると、何か自分の自立をオオビヤカされそうに感じる。B、自分は自立しているから、別に親と  
会ったり、話し合ったりする必要がない、と考える。このような傾向が強くなるのではなからうか。A、それは  
よく考えてみると、自立ではなく孤立になっているように思われる。たしかに、親子の関係がベタベタとしていて、自立  
ができていないな、と感じさせられる場合もある。このようなときは、自立の裏打ちとしての依存というより、依存の中  
に両者ともに溺れこんでいる、という感じがする。

このようなことを考えていたら、心理学の世界でも、自立と依存とを対立するものとしてとはとらえずに、D 必  
要な依存が自立を助ける、というような観点からの研究がだんだんと出てきて、⑦ 我が意を得たりと思っっている。人生の

中には、一見対立しているように見えて、実はお互いに共存し、裏づけとなつているようなものが、案外多いのではないか。そのような目で自分の生き方を見てみると、必死になって排除しようとしていたものに価値のあることがわかるのではなからうか。その発見によって、生き方に厚みが出てくると思われる。

問一 傍線部ア～オのカタカナを、それぞれ漢字に改めなさい。

問二 空欄A～Dにあてはまる語を、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア	しかし	イ	だから	ウ	あるいは	エ	むしろ
オ	つまり	カ	なぜなら	キ	たとえば	ク	そして

問三 傍線部①「不都合なこと」とはどういうことか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自立と依存は相反する概念であると、単純に考える人が出てくること。
- イ 自立も依存も不必要な概念であると、単純に考える人が出てくること。
- ウ 自立と依存は同一の概念であると、短絡的にとらえる人が出てくること。
- エ 自立や依存という言葉は人の生き方を迷わすと、短絡的に考える人が出てくること。

問四 傍線部②「いつぞや」の意味として最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 旬日      イ 終日      ウ 前日      エ 過日

問五 傍線部③「できる限り自分から離すようにして子供を育てた」のは、母親が「自立」と「依存」の関係をどう考えたからか。その考えが述べられているところを、本文中から五十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

問六 傍線部④「甘えること、甘やかすことに対する免疫が十分にできていない」とはどういうことか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 甘えることも甘えさせることも適度にできず、過剰になってしまうということ。

イ 甘えることは得意だが、甘えさせることは不得手であるということ。

ウ 甘えることが、甘えさせることの免疫には決してならないということ。

エ 甘えることも甘えさせることも適度にできて、うまくつき合っているということ。

問七 傍線部⑤「親子の関係などは、日本よりはるかに薄いのだろう」とあるが、筆者はなぜそのように誤解したのか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自立を求める人間は、自分の肉親に対しては冷たい態度をとるものだと考えたから。

イ 自立を求める人間は、人とつき合うことで自立が壊されると思うものだと考えたから。

ウ 自立を求める人間は、次には孤独を求めるようになっていくものだと考えたから。

エ 自立を求める人間は、人とのつき合いを煩わしく感じるものだと考えたから。

問八 傍線部⑥「これ」は何を指しているか。本文中の語句を用いて簡潔に答えなさい。

問九 傍線部⑦「我が意を得たり」の意味を答えなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

清兵衛のいる町は商業地で船着き場で、市にはなっていたが、割に小さな土地で二十分歩けば細長い市のその長いほうが通り抜けられるくらいであった。だからたとえ瓢箪ひょうたんを売る家はかなり多くあったにしろ、ほとんど毎日それらを見歩いている清兵衛には、おそらくすべての瓢箪は目を通されていたろう。

彼は①古瓢にはあまり興味を持たなかった。まだ口も切っていないような皮つきに興味を持っていた。しかも彼の持っているのは大方いわゆる瓢箪形の、割に平凡な格好をした物ばかりであった。「子供じゃけえ、瓢箪いうたら、こういうんでなかにやあ気に入らんもんと見えるけのう。」大工をしている彼の父を訪ねてきた客が、傍で清兵衛が熱心にそれを磨いているのを見ながら、こう言った。彼の父は、「子供のくせに瓢いじりなぞをしおって……」とにがにがしそうに、そのほうをカエリみた。「清公②そんなおもしろくないのばかり、えっと持ってもあかんぜ。もちっと奇抜なんを買わんかいな。」と客が言った。清兵衛は、「こういうがええんじゃ。」と答えて、スイまイしていた。

清兵衛の父と客との話は瓢箪のことになっていった。「この春の品評会に参考品で出ちよった注一③馬琴ばきんの瓢箪というやつはすばらしいもんじゃったのう。」と清兵衛の父が言った。「えらい大けえ瓢じゃったけのう。」「大けえし、だいが長かった。」こんな話を聞きながら④清兵衛は心で笑っていた。馬琴の瓢というのはそのときの評判な物ではあったが、彼

はちょっと見ると、——馬琴という人間も何者だか知らなかったし——すぐくだらない物だと思ってその場を去ってしまった。「あの瓢はわしにはおもしろうなかつた。<sup>⑤</sup>かさばつとるだけじゃ。」彼はこう口を入れた。それを聴くと彼の父は目を丸くして怒った。「何じゃ。わかりもせんくせして、黙つとれ！」<sup>⑥</sup>清兵衛は黙ってしまった。

彼はそれから、その瓢が離せなくなった。学校へも持っていくようになった。しまいには時間中でも机の下でそれを磨いていることがあった。それを受け持ちの教員が見つけた。<sup>注2</sup>修身の時間だっただけに教員はいっそう怒った。

他所から来ている教員にはこの土地の人間が瓢筆などに興味を持つことが全体気に食わなかつたのである。この教員は武士道を言うことの好きな男で、雲右衛門が来れば、いつもは通り抜けるさえおそれている新地のウギヨウを三日聴きに行くくらいだから、生徒が運動場でそれを唄うことにはそれほど怒らなかつたが、清兵衛の瓢筆では声を震わして怒つたのである。「どうてい将来見込みのある人間ではない。」こんなことまで言った。そしてその<sup>⑦</sup>丹精を凝らした瓢筆はその場で取り上げられてしまった。清兵衛は泣けもしなかつた。

彼は青い顔をして家へ帰ると炬燵こたつに入つただだぼんやりとしていた。

そこに本包みを抱えた教員が彼の父を訪ねてやつてきた。清兵衛の父は仕事へ出て留守だった。「<sup>⑧</sup>こういうことは全体家庭で取り締まっていただくべきで……」教員はこんなことを言つて清兵衛の母に食つてかかった。母はただたオキョウシユクしていた。

清兵衛はその教員の執念深さが急に恐ろしくなつて、唇を震わしながら部屋の隅で小さくなつていた。教員のすぐ後ろの柱には手入れのできた瓢筆がたくさん下げたあつた。今気がつくか今気がつくかと清兵衛は「A」していた。

さんざん叱言を並べたあと、教員はどうどうその瓢筆には気がつかずに帰つていった。清兵衛はほつと息をついた。清兵衛の母は泣き出した。そして「B」と愚痴っぽい叱言を言い出した。

間もなく清兵衛の父は仕事場から帰つてきた。で、その話を聞くと、急に側にいた清兵衛を捕まえてさんざんに殴りつ

けた。清兵衛はここでも「X」と言われた。「もう貴様のようなやつは出て行け。」と言われた。清兵衛の父はふと柱の瓢箪に気がつく<sup>注3</sup>と、玄能を持ってきてそれを一つ一つ割ってしまった。清兵衛はただ青くなって黙っていた。

注1 馬琴—曲亭馬琴。江戸時代の戯作者。

注2 修身—国民道徳の実践指導を目的とした教科目の一。

注3 玄能—頭の両端にとがりのない金づち。

問一 傍線部ア〜オのカタカナを、それぞれ漢字に改めなさい。

問二 傍線部①「古瓢にはあまり興味を持たなかった」とあるが、どういうことを意味しているか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 古いものは使い古されていて好ましくないこと。

イ 古いものは作った人の美意識が込められていて望ましくないこと。

ウ 新しいものを作り出すことに興味があること。

エ 新奇なものであれば、どんなものでもよいということ。

問三 傍線部②「そんなおもしろくないの」とはどういうものか。本文中から二十字以内で抜き出しなさい。

問四 傍線部③「馬琴の瓢箪」にはどういう特徴があるか。本文中から漢字二字で抜き出しなさい。

問五 傍線部④「清兵衛は心で笑っていた」とあるが、なぜか答えなさい。

問六 傍線部⑤「かさばっとるだけじゃ」、⑦「丹精を凝らした」の意味として最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

⑤ ア 傘のように上のほうが開いているだけだ。      イ 下のほうが張って下ぶくれであるだけだ。

ウ 評判だけが高く、その実大したものではない。      エ ただ図体が大きいだけだ。

⑦ ア 独自の工夫をした      イ 真心を込めて磨いた

ウ 無料で手に入れた      エ 授業を犠牲にして磨いた

問七 傍線部⑥「清兵衛は黙ってしまった」とあるが、この時の清兵衛の心情として最も適当なものを、次から三つ選び、記号で答えなさい。

ア はかなさ      イ あわれみ      ウ あきらめ      エ 恐れ

オ 恥ずかしさ      カ 後悔      キ 反抗

問八 傍線部⑧「こういうこと」が指している内容を、二十五字以内で答えなさい。

問九 空欄A・Bにあてはまる語を、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ドキドキ      イ ヒヤヒヤ      ウ ハラハラ      エ グラグラ      オ グズグズ      カ グダグダ

問十 空欄Xにあてはまる父の言葉として最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 子供がこんなものに興味を持つな。      イ 先生を怒らせるとは見込みのないやつだ。

ウ 将来とも見込みのないやつだ。      エ 母さんを泣かせるやつは許さない。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、<sup>注1</sup>式部大輔匡衡、<sup>注2</sup>学生にて、<sup>①</sup>いみじき者なり。<sup>②</sup>才は極めてめでたけれど、<sup>③</sup>みめはいとしもなし。丈高く、<sup>注3</sup>指肩にて、見苦しかりければ、女房ども、「<sup>④</sup>言ひまさぐりて、笑はん。」とて、和琴をさし出だして、「よるづの事、知り給ひたんなるを、これ弾き給へ。聞かん。」と言ひければ、<sup>⑤</sup>逢坂の関のあなたもまだ見ねばあづまのことも知られざりけりと言ひたりければ、<sup>⑥</sup>女房ども、え笑はで、やはらづつひき入りにけり。<sup>⑦</sup>赤染衛門がをとこなり。

注1 式部大輔—式部省の次官二人の内、上位の者。 注2 学生—式部省の大学寮などに在籍して学問をする者。  
注3 指肩—高く張った、いわゆる怒り肩。

問一 傍線部①「いみじき者なり」を口語訳しなさい。

問二 傍線部②「才」、③「みめ」、⑦「をとこ」の本文中における意味を、それぞれ次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

② 才	ア 和歌の才能	イ 学問の才能	ウ 芸術の才能	エ 蹴鞠の才能
③ みめ	ア 家柄	イ 地位	ウ 外見	エ 人柄
⑦ おとこ	ア 男の子	イ 恋人	ウ 兄弟	エ 夫

問三 傍線部④「言ひまさぐりて、笑はん」について、女房どもがそう思ったのはなぜか。最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 匡衡が背高のつばであったから。      イ 匡衡がすぐれた歌よみであったから。  
ウ 匡衡が見苦しい容姿の男であったから。      エ 匡衡がすぐれた才能の持ち主であったから。

問四 傍線部⑤「逢坂の」の歌の説明として最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ア音を重ねた調子のよい歌をよむことで、和琴の演奏のかわりとしている。
- イ 自分は逢坂の関の向こうの東国のことは何も知らない愚か者だと告白している。
- ウ 「逢坂」の「あふ」に「恋人に会う」の意を掛けて、女房への恋心をよんでいる。
- エ 「東の事」に「東の琴」を掛けて、和琴を弾くことを辞退している。

問五 傍線部⑥「女房ども、え笑はで、やはらづつひき入りにけり」の理由として最も適当なものを、次から一つ選び、

記号で答えなさい。

- ア 匡衡をからかうつもりが、見事な和歌でやり返され、恥じ入ったから。
- イ あわてて和歌をよんだ匡衡が滑稽で、人前での笑いを抑えかねたから。
- ウ 歌をよむことで、琴の演奏を断った匡衡に立腹したから。
- エ 予想に反し、無能の匡衡に驚きあきれ、興ざめたから。

問六 この話の趣旨として最も適当なものを、次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 同時代に活躍した匡衡・赤染二人の挿話（エピソード）を記した。
- イ 匡衡・赤染二人が結ばれる直接的な要因となった挿話を記した。
- ウ 女房どもに笑われて、匡衡と赤染とが結ばれなかった挿話を記した。
- エ 匡衡が得意即妙の和歌で、女房どもを圧倒した挿話を記した。